

# ウチヌキ 福島工場

ウチヌキ(本社・神奈川県綾瀬市早川、社長・中尾健太郎氏)は、1966年の創業以来、パンチング加工を主力事業に経営基盤を拡大してきた。「未来を創造する『夢工房』」を信条に、加工技術の深化と、金属に次ぐ新素材の可能性を追求している。その中核拠点である福島工場(福島県西白河郡中島村)を訪ねた。

(中野 裕介)

## 工場ホ

県南部に位置し、県産拠点として現場と事内で面積が最小の中島務所を合わせて20人強村。山間に広がる田畑が操業を支える。

当初は1棟で始動し、その後、時間の経過とともに、開設したのは88年。本社工場と並ぶ生産効率を改善する観点から、90年に本社工場(綾瀬市)を現在地に集約。3年前の07年までに工場棟の新増設を重ねた。今では8千平方メートルの敷地にパンチングメタルの心臓部の金型を製造する専用棟を囲むように4つの工場棟が立つ。

### パンチングメタル

## 微細孔加工に力

### 一人一人が考える現場へ

建屋は、母材や製品に専用の母材を置く専用棚には、一段ごとに事務所と共通の番号を付け管理する。建築を駆使し、顧客の要望に「少数量で短納期の受注に絡む出荷が多い」(臼井 非鉄金属以外の素材への考えを重視し、直近では年次や役職に捉われない)「中尾社長」の考えを重視し、現場の扉に掲げる標語で、生産の舞台裏に息をのませる。07年にづく。

径が1mm以下の微細孔を確保するなど、母材の穴あけ加工を軸に生じた穴の防風板や騒音を緩和する吸音板など、大型プレス機を主とする特殊な加工は、市場で大きな優位性をもたらし、10台を超えて製品に合わせた専用で加工する専用機がラインを組む。残る工程は、定尺品の切断や母材の工場では、タレる弱電向けなどに強みを発揮するコアな製品のパッケージや仮置き



新素材に対応した技術開発にも注力

社員への権限委譲を積極推進している。品質マネジメントシステム「整理・整頓・清潔・清掃」のISO9001を達成し、顧客視点を感じられない。工場の扉に掲げる標語で、生産の舞台裏に息をのませる。07年にづく。